

氏名 (ふりがな)	安藤 清一(あんど う せいいち)
所属・職位	保健福祉学部栄養学科・教授
最終学歴	北海道大学大学院水産学研究科水産食品学専攻修士課程修了 (1979年)
学位	水産学博士 (北海道大学、1986年)
免許・資格	
連絡先	TEL:01654-2-4199 (ダイヤルイン 2203) FAX: 01654-3-3354 E-mail: ando@nayoro.ac.jp (メールを送る際には.jpg を.jp に変更して下さい) URL: http://nayoro.ac.jp/ 研究室所在地: 恵陵館2階 2203

専門分野	食品科学、水族生化学
主な担当科目	栄養学科: 食品学総論, 食品学各論, 食品学実験 I・II 教養教育: 化学
主な研究テーマ	1. 未利用地域資源の有効利用に関する基礎研究 2. 脂質輸送関連タンパク質の構造と機能に関する研究
研究キーワード	食品分析、食品機能、脂質輸送、リポタンパク質、遺伝子発現
主な著書・論文 (最近5年間)	1. Oku T, <u>Ando S</u> , Hayakawa T, Baba K, Nishi R, Shiozaki K, Yamada S. Purification and identification of a novel primitive secretory enzyme catalyzing the hydrolysis of imidazole-related dipeptides in the jawless vertebrate <i>Lethenteron reissneri</i> . <i>Peptides</i> 2011;32:648-655. 2. Kanno G, Kishimura H, <u>Ando S</u> , Klomklao S, Nalinanon S, Benjakul S, Chun B-S, Saeki H. Structural properties of trypsin from cold-adapted fish, arabesque greenling (<i>Pleurogrammus azonus</i>). <i>European Food Research and Technology</i> 2011;232:381-388. 3. Takumi S, Komatsu M, Furukawa T, Ikeda R, Sumizawa T, Akenaga H, Maeda Y, Aoyama K, Arizono K, <u>Ando S</u> , Takeuchi T. p53 plays an important role in cell fate determination after exposure to microcystinLR. <i>Environmental Health Perspectives</i> 2010;118:1292-1298. 4. Choudhury M, Yamada S, Komatsu M, Kishimura H, <u>Ando S</u> . Homologue of mammalian apolipoprotein A-II in non-mammalian vertebrates. <i>Acta Biochimica et Biophysica Sinica</i> 2009;41:370-378.
外部獲得資金 (最近5年間)	1. 平成 21-23 年度科学研究費補助金, 基盤研究C (日本学術振興会), ウナギ血漿を青緑色に着色するビリベルジン結合タンパク質アンギラシアニンの生化学, 研究代表者 2. 平成 19 年度科学技術振興機構シーズ発掘試験, 健脳成分プラスマローゲンを水産廃棄物から回収する技術の開発, 研究代表者
学会活動	1. 日本水産学会正会員 (1978年~現在) 2. 日本農芸化学会、正会員 (1982年~現在) 3. 日本脂質生化学会正会員 (1986年~現在)
社会貢献	<委員会など> 日本水産学会企画広報委員会 (2002年1月~2007年3月) <講演など> 高等学校生徒を対象とした遺伝子学習講座「パソコンで覗く魚の遺伝子の世界」の企画および講師 (2004年12月)
受賞	平成2年度日本水産学会賞水産化学部門奨励賞受賞 (1991年4月, 東京)

コメント	健康な食生活をおくるうえで重要な役割を果たす食に関する科学について、食品学関連の講義・実験等を通して可能な限り分かりやすく解説したいと思います
------	---